

1日目

in 日産スタジアム



佐藤(東海大)やモグス(山梨学大)ら、有力ランナー不在の中行われた10000m。それでも例年以上に28分台ランナーが多数顔を揃え、ハイレベルな戦いであることに変わりはない。

レースはスタートしてからめまぐるしく先頭が入れ替わり、ペースが安定しないまま中盤へ。そして6000mすぎから「勝負にこだわった」という宇賀地が、後半はレースの主導権を握った。ラスト一周を残して木原(中央学大)を筆頭にスパート合戦が展開し、最後まで粘り4位でゴールした。4月にマークしたばかりの自己ベストも更新。学生チャンピオンの座には届かなかったが、他校のエースに引けをとらない走りで実力を誇示した。

「大学に入ってから一番良かった。80点くらいですね」と語った宇賀地。「エース」への道を突き進むルーキーの快進撃は止まることをしらない。(米田樹史)

< 1500m予選 >

1組	14着	高林祐介(歴1)	4:07:17
----	-----	----------	---------

< 10000m決勝 >

1位	北村 聡(日体大)	28:44:30
2位	木原真佐人(中央学大)	28:45:35
3位	ギタウ・ダニエル(日大)	28:47:53
4位	宇賀地 強(法1)	28:48:30

第75回日本学生陸上競技対校

2日目 選手権大会



5000m決勝、駒大からは豊後、宇賀地が出場した。

今回の試合は、8位入賞者が13分台を記録するというハイレベルかつし烈な戦いとなった。駒大選手が、どれだけ日本トップレベルとも言えるその勢いについていけるかがポイントであった。

レースは後半から大きく動き出した。それまでペースが上がらなかった宇賀地が追い上げ前方集団に追い付き、さらに前へと迫る積極的な走りをみせる。周りもラストスパート、抜きつ抜かれつの状況が続く。集団の先頭が次々と入れ代わる中、なだれ込むようにしてゴール。健闘の結果、宇賀地は、順位は12位であったものの自己ベストを更新するという好成績を残した。一方豊後は、レース後半からも追いつけることができないまま、悔しい結果に終わった。

宇賀地には今後より一層の、豊後には今回の結果をバネとした活躍が期待される結果となった。(渡辺悠)

< 5000m 決勝 >

1位	メクボ・モグス(山梨学大)	13:28:22
2位	佐藤悠基(東海大)	13:29:32
3位	竹澤健介(早大)	13:30:96
12位	宇賀地 強(法1)	13:54:15
20位	豊後友章(商3)	14:13:43